

# 新聞を読むことを通して、 かかわりの中で伝え合う力を高める子どもの育成

佐渡市立小木小学校

## 1 N I E実践のねらい（研究内容）

今年度はN I E実践・研究委嘱校2年目として、研究主題を「新聞を読むことを通して、かかわりの中で伝え合う力を高める子どもの育成」と設定した。研究教科を国語科とし、年間を通して、国語科の資質・能力である「筋道を立てて考える力」や「かかわりの中で伝え合う力」の向上を目指した。日々の授業では、各単元で目指す子どもの姿を具体的に設定するとともに、学習の過程で「何を・どのように学ぶとよいか」を明確にした授業を構成した。その際、昨年度の実践で得られた「新聞の活用で身に付ける力」は、日常的な取組であるN I Eタイムを中心に育むこととし、国語科における有効性を探ることとした。

### 「新聞の活用で身に付ける力」

- ① 世の中の出来事に対して興味・関心をもつ。
- ② 記事を正確に読み取り、自分の考えをもつ。
- ③ 新聞の表現方法を活用して、考えを話したり、書いたりする。
- ④ 記事と自分の経験をつなげて、新たな意見を提案する。考えを強化する。

### N I Eタイムにおける教師の役割

- ・週に1回以上、学級全員で新聞に触れ、読む機会を確保する。
- ・朝学習を15分間とし、短時間で集中して取り組む。
- ・学年に応じて興味・関心がもてる記事を用意する。
- ・識字や語彙に差がある場合は、発達段階に応じた支援を行う。子ども新聞を扱う等、児童自らが積極的に読み進められるように配慮する。



## 2 研究方法

以下の（１）～（４）の手立てにより、子どもが年度当初と比べてどのように変容したか、①ワークシートの数値、②児童アンケートの意識調査の２点から客観的な評価を行う。

（１）教育活動全体で新聞活用をする。

| 新聞を媒体とした授業改善の取組                                                                                                          |                                                      |                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一回以上公開授業を行う。（研究教科 国語）</li> <li>・「新聞の活用で身に付ける力」が発揮・育成される学習課題と学習活動の検討</li> </ul> |                                                      |                                          |
| N I E タイム                                                                                                                |                                                      |                                          |
| 毎週水曜日、N I E タイム（１５分間）を設定し、新聞にかかわる内容で学年に応じた新聞記事を読む活動を取り入れる。                                                               |                                                      |                                          |
| N I E イベント                                                                                                               | N I E コーナー                                           | 授業での新聞活用                                 |
| 図書委員会や図書館司書を中心に、新聞にかかわるイベントをする。                                                                                          | 研修部を中心に、児童玄関前壁面に特集記事を紹介する。<br>全職員が輪番でおすすめの新聞記事を紹介する。 | 研究教科（国語）以外の授業での学習内容と関連した新聞記事を活用し、学びを深める。 |

（２）国語科の系統性を意識し、単元を通して「目指す姿」を具体的に設定する。

（３）「話すこと・聞くこと」の話す／聞く（受けて話す）または、「書くこと」の報告・記録・説明・意見等（説明的な文章）の単元で授業研究を行う。

（４）研究主題で述べた姿を具現化するために、次の２点を重視する。

- ・必要感のある課題をもたせるための手立て
- ・目的意識を明確にした「伝え合い」にするための手立て

## 3 研究の実際

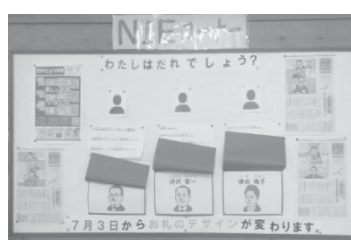
### （１）N I E コーナー【新聞に親しむ環境づくり】

#### ①児童玄関前の壁面コーナー

研修部を中心に、月に２回程度、特集記事を紹介した。廊下を通る際に眺めていく子どもや、気になった記事やコメントがあると足を止めて読む子どもの姿が日常的に見られるようになった。ランドセルを背負ったまま、新聞が閲覧できる机に立ち寄り、お気に入りの記事を読んでから教室に向かう子どももいる。自ら新聞を読む子どもの数が確実に増えた。



５月



７月



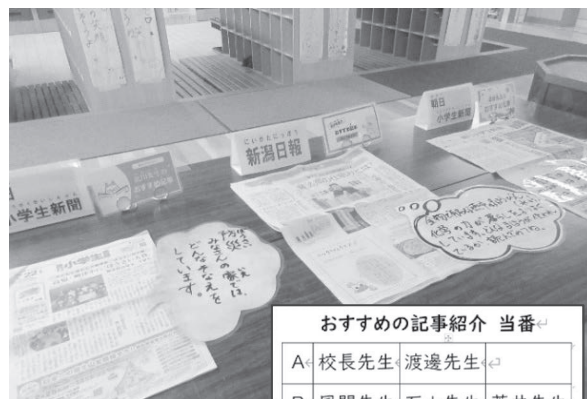
８月

## ②新聞の閲覧コーナー

子ども向けの新聞は読むが、一般紙や経済新聞は置くだけでは読まない。そこで、職員が一週間ごとの輪番でおすすめの記事紹介をした。

子どもが一般紙や経済紙の内容にも触れて、記事を見たり読んだりしていた。記事に対する職員の捉え方が示されるため、複数の視点から記事を読む機会を提供することができた。

職員にとっても新聞を読む機会が増え、より新聞に対する理解が深まった。



| おすすめの記事紹介 当番 |      |       |      |
|--------------|------|-------|------|
| A            | 校長先生 | 渡邊先生  |      |
| B            | 風間先生 | 石山先生  | 荒井先生 |
| C            | 松井先生 | 佐々木先生 | 塚野先生 |
| D            | 教頭先生 | 池野先生  | 後藤先生 |

※各担当の先生は、毎月1回、このコーナーを担当していただきます。担当の先生は、このコーナーを担当していただくことになりました。

## (2) NIEイベント 【新聞活用術の紹介】

昨年度は、学校司書が図書室前に「新聞活用術」の紹介をした。関心をもって見てはいるが、実際に作ったという声は聞かれなかった。

今年度は、ロングの昼休みに学期に1回(年3回)のイベントを計画・実施した。



### ① 第1回 防災スリッパ (担当：学校司書、図書委員)



一つスリッパを作り終えた1年生は、「家族分も作る」と、それぞれの足に合う大小のスリッパを意欲的に作った。のべ20名がイベントに参加した。

### ② 第2回 新聞棒をつくって、なげよう (担当：高橋校長、図書委員)

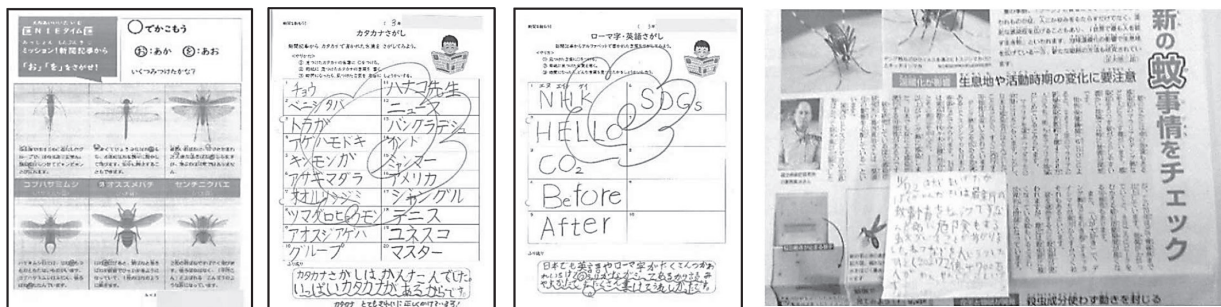


第2回目は、体を動かすことが好きな子どもが進んで参加し、作ること、投げることを楽しんだ。「どうしたら遠くに飛ぶかな?」「〇〇さん、すごい!」と夢中になって投げていた。全校の半数の子どもが参加した。

### ③ 第3回 新聞ごま (担当：学校司書、図書委員) 1月実施予定

### (3) NIEタイム 【新聞を読む時間の設定】

昨年度は、言葉探し（ひらがな・カタカナ・アルファベット）や季節を表す言葉探し、読売新聞のワークシート活用、気になった記事の感想を付箋に書いたり、スクラップをしたりなど、手探りで新聞に触れさせた。子どもは、見たり、読んだりして新聞に親しんでいたが、学級全体で思いや考えを交流し、読みを広げたり、深めたりするまでには至らなかった。



今年度は、昨年度の課題から以下の①②を行った。

①教師が、子どもの興味・関心をもちそうな記事を選び、新聞を教材化する。

＜新聞を教材化するポイント＞

- ・ 関心をもつ記事、タイムリーな記事、自分事として捉える記事を選ぶ。
- ・ 読み取らせたいことを焦点化した問いを一つ考える。（問い＋ふり返し）

＜読ませるときのポイント＞

- ・ 導入で子どもの心をつかむ。⇒進んで記事を読もうとする意欲
- ・ 大事な言葉や文に線を引かせ、内容を正確に読ませる。⇒読解力の向上
- ・ 考えを交流する場を設ける。⇒多面的・多角的な考え方の構築



水筒をかけて走らないで 消費者庁が注意呼びかけ

毎日小学生新聞 （2023年9月20日）

- ①水筒を肩にかけることでどのような危険がありますか。
- ②【ふり返し】これからどんなことに気をつけたいですか。



「佐渡島の金山」技術や歴史、未来へ

朝日小学生新聞 （2024年9月28日）

- ①なぜ「佐渡島の金山」は世界遺産になったのでしょうか。そのすばらしさは何かを記事から読み取ろう。
- ②【ふり返し】記事を読んで感想を書きましょう。

②かかわりを通して、学んだことや感じたことを相手に尋ねる・伝える活動を設定する。

＜新聞記事を活用して、伝え合う力を高めるポイント＞

- ・読んでみたいと思う記事を選ぶ。
- ・読みたい記事を探して読む。（探す3分、読み、自分の考えをもつ5分）
- ・二人一組で相手に質問をしながら、記事の内容を伝える。（3分×2）

#### （４）授業研究 【「新聞の活用で身に付けた力」を発揮する場】

研究教科を国語科とした。その系統性を意識し、1～5年生は、「書くこと」の報告・記録・説明・意見など（説明的な文章）の単元、6年生は「話す・聞くこと」（受けて話す）の単元で授業研究を行った。

国語科の資質・能力である「筋道を立てて考える力」や「かかわりの中で伝え合う力」の向上を目指した。



| 月   | 研修内容                                                  | 授業者                       |
|-----|-------------------------------------------------------|---------------------------|
| 5月  | 職員研修「新聞の基礎理解」                                         | 全職員                       |
| 6月  | 新潟日報 読者局参与 木村 隆様より<br>「新聞の見方・構成のしかた」を学ぶ               | 4・5・6年生 受講                |
| 6月  | プロジェクト訪問・下越教育事務所<br>「新聞を作ろう」（書く）                      | 4年 渡邊あずさ教諭                |
| 7月  | 「こんなもの、見つけたよ」（書く）                                     | 2年 石山 陽基教諭                |
| 8月  | 職員研修 指導案検討、NIEタイムの活用                                  | 全職員                       |
| 9月  | 「インターネットでニュースを読もう」（読む）                                | わかたけ学級 風間 薫教諭             |
| 10月 | 「食べ物のひみつを教えます」（書く）<br>「しらせたいな、見せたいな」（書く）              | 3年 池野 真友教諭<br>1年 佐々木佐絵子教諭 |
| 11月 | NIE2年目まとめ研究会<br>「自然環境を守るために」（書く）<br>「今、私は、ぼくは」（話す・聞く） | 5年 後藤 明子教諭<br>6年 荒井 拓途教諭  |
| 12月 | 「小木っ子の主張 発表会」<br>参観者：3・4年生、保護者、地域の方                   | 5・6年生 発表                  |



## 4 実践の内容

### (1) 実践例 5年国語科「自然環境を守るために」(光村図書)

#### ① 本時のねらい (7 / 10 時間)

自分たちの主張との整合性や資料同士の関係性を考えて資料を選び、構成メモを作ることができる。

#### ② 使用した記事

「自転車ヘルメット たった一割」読売 KODOMO 新聞 2023 年 9 月 21 日

#### ③ 手立て

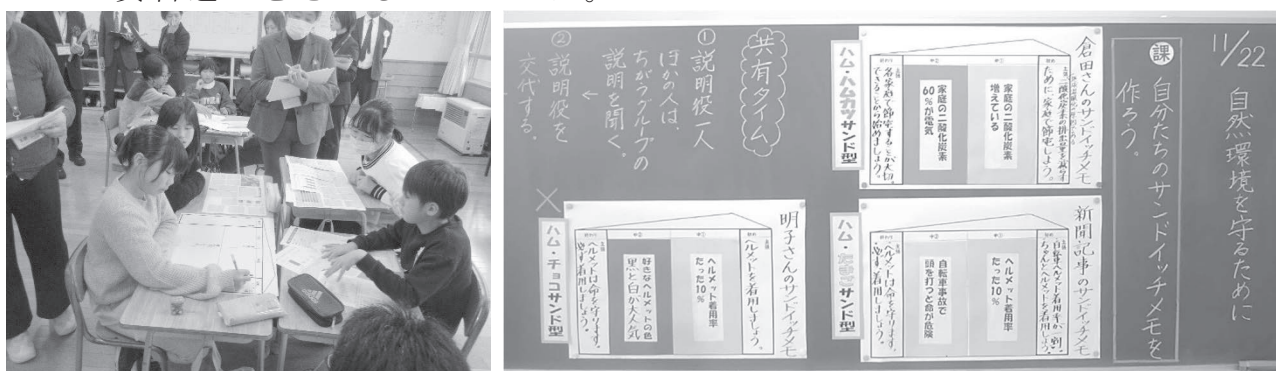
児童に身近な「ヘルメット着用について」の記事を扱う。この記事に示された2つの資料(①都道府県別ヘルメット着用率の表、②自転車事故致命傷の部位の円グラフ)は、個別で見ると関連性は薄い、「ヘルメットを着用してほしい」という主張に強く結びついていることを捉えさせる。

環境問題に関わる2つの資料を選ばせ、構成メモを作成させる。サンドイッチ(「初め・終わり(主張)」がパン、「中(事例)」を具材)に例えた型に整理し、主張したいことに対する2つの資料の結びつきを検討させる。

#### ④ 授業の実際

ヘルメット着用の記事を提示すると、子どもは関心を示し、記者が伝えたいことや2つの資料の関連性を活発に発言した。子どもにとって身近なヘルメット着用の記事を扱ったことは、視覚的、内容的にもとても分かりやすく、文章構成を捉えさせるのに有効な手立てであった。

グループで構成メモを作成する際、教科書の二酸化炭素排出やヘルメット着用のサンドイッチメモを生かし、選んだ資料から何を伝えたいかを考える姿が見られた。しかし、主張がはっきりと決まらないまま資料を選んだり、視覚的に分かりやすい資料を選んだりして、選んだ資料と主張との整合性が結びつかなかったグループもあった。主張を決めてから、それを伝えるための資料選びをさせるとよかった。



### (2) 実践例 6年国語科「今、私は、ぼくは」(光村図書)

#### ① 本時のねらい (3 / 6 時間)

スピーチの構成がどのようなものかが分かり、聞き手を意識した構成を考えることができる。

## ②使用した記事

「誰も見ないが手は抜かず」新潟日報 2024年9月16日

## ③手立て

NIEタイムを活用し、新聞記事に出てくる人物や出来事などから、自分の将来に生かせそうなことを見付けさせ、スクラップとして蓄積させる。同時に、記事について考えたことを書いたり話したりする活動を取り入れる。

スピーチの構成が決まらない児童やどのように改善してよいか分からない児童のために、ペアになり、互いの内容について質問させる対話活動を取り入れる。相手が、よりよいスピーチができるよう、対話を通してスピーチを作り上げていけるようにする。

## ④授業の実際

本時の課題は「スピーチメモの作成と改善」であったが、子どもの実態として「スピーチメモに何を書いたらいいかわからない」や「終わりの言葉がわからない」などの困り感があり、本時の課題と離れてしまっていた。子どもが必要としていることを見極め、課題提示や活動につなげていけると、本時で目指す姿に近づけることができたと考える。

スピーチメモを再構成するための対話活動では、聞き手を意識して助言し合う姿が見られた。一方で、スピーチメモの作成に時間がかかったことで、メモに内容を付け足すための話し合いになってしまい、内容を再構成するための活動に至らなかったペアもあった。児童の実態に合わせながら柔軟に授業を展開することが課題である。



## (3)「小木っ子の主張 発表会」の開催

公開授業研究を行った5・6年生を対象に本単元のゴールとして「小木っ子の主張 発表会」を設定した。参観者は、5・6年生の保護者、3・4年生、地域の方々である。発表内容についてよく知らない人が多いため、相手に伝わるよう言葉を選んだり、構成メモを検討したりして、練習に取り組んだ。

5年生は環境問題に対する提案をテーマ別に発表した。6年生は自分の将来の夢やなりたい人物像について一人一人が堂々と考えを述べることができた。

令和6年度 NIE 実践・研究校

## 小木っ子の主張 発表会

令和6年度、佐渡市立小木小学校は、NIE（新聞活用教育）の取組を進め、児童の自主的な学習活動を促すため、新聞を活用した学習活動を実施しました。児童が新聞から情報を取り出し、自分たちの考えや意見を発表する機会を設け、地域の方々に発表してもらいました。発表内容は、5年生は環境問題に関する提案、6年生は自分の将来の夢やなりたい人物像についてです。発表は、児童の自主的な学習活動の一環として実施されました。

5年生  
環境問題  
について提案！

6年生  
将来の自分  
スピーチ！

日時 令和6年 12月13日(金)  
14時20分～15時30分

場所 あゆす会館 会場内  
「NIE 展示スペース」設け

佐渡市立小木小学校



## 5 研究のまとめ

### (1) 子どもたちの声～新聞アンケートより～

- ・新聞に佐渡がのっているとうれしくなります。
- ・新聞を読んだら、どこに、どんな記事があるかが分かるようになりました。
- ・N I Eコーナーに興味がある記事があると、立ち止まって読んでいます。
- ・N I Eタイムでたくさんおもしろい新聞を読んで興味をもてました。
- ・前まであまり新聞に興味がなかったけど、読んでいくうちにだんだん好きになってきました。朝、「〇〇先生のおすすめ記事」を読んでいます。
- ・前までは、新聞を読むのはむずかしいと思っていたけど、自分の好きな記事を読んだり、内容が分かったりすると他の記事も読めるようになりました。

### (2) 成果と課題

各学年の授業公開では、主に「書くこと」の領域のうち、自分の書きたい内容について、「構成を検討する」過程を扱った。目的や意図に応じて書くことを選ばせるとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことが明確になるように文章の構成を考えさせた。子どもが必要感をもって課題解決に向かえるよう手立てを講じたことで、読み手を意識して伝えたい内容を選ぶ姿が多く見られた。また、順序を考えて構成したり、自分の思いや考えについて、根拠も含めて相手に伝えたりする姿も見られた。

一方で、相手の思いや考えを知り、不足している部分や不明な部分を見つけて尋ねたり、よりよい構成を求めて助言したりすることに弱さが見られた。今後のN I Eタイムでは、かわりを通して、感じたことや学んだことを相手に尋ねる・伝える活動に重点をおき、伝え合う力を高めていく。

2年間の新聞を読む活動を通して、子どもたちに読む力がついたと実感している。それは、週1回のN I Eタイムで、継続して新聞を読み続けたことにある。子どもが、新聞から得られる情報や知識を求めて、自ら学ぼうとする姿に期待し、今後もN I Eの活動を続けていきたい。

(渡邊 あずさ)

## 担当 NIE アドバイザー及び担当新聞・通信社からの一言

### 1 担当 NIE アドバイザー

佐渡市立行谷小学校 教頭 猪股 快門



主に 1 年目に、小木小校の NIE に関わらせて頂きました。研究主任の渡邊あずさ先生を船頭にして、学校全体を NIE 一色に研究推進して来られた小木小学校の取組には、脱帽です。まさに現代の北回り航路の千石船。寄港地小木港のそばにある小学校が、県内外に NIE のもつ魅力を送り届けられる研究を進めて来られたように思います。

1 年目に研究会に行った時のことです。天気のよい昼さがりの玄関に入ると各社の新聞が並べられた「NIE コーナー」がまず目に入りました。吹き抜け玄関の温かな日差しの中で、夢中になって新聞を読む子がいました。ほのぼのした雰囲気でした。授業は、もちろん素晴らしかったと思うのですが、こんな「新聞が日常にある」空間を生み出した小木小の取組は、新聞好きな「人」をたくさん創る大きな礎を残したように思います。本当に、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

### 2 担当新聞・通信社

毎日新聞社新潟支局長 田倉 直彦



公開授業では、資料の見せ方一つとっても工夫がうかがえ、子どもたちに自主的に考えをまとめてもらうために、先生方が熱意を持って入念に準備されたことが伝わってきました。

文章で自分の主張を人にきちんと伝えようとするなら、構成を検討することが必要になります。こうした作業は、子どもたちの考える力を育てる上で非常に効果があります。しかし「人に伝える」という目的を明確に意識しつつ、そうした作業を体験する機会は、日々の生活では少ないでしょう。

そうした点から、今回の授業で示された、資料や主張を並べて組み立てていく「サンドイッチメモ」「スピーチメモ」を作る学習方法には優れたものを感じました。

班ごとの議論の中で子どもたちが、自らの意思で「どうすれば人に分かりやすく伝えられるか」と話し合う姿を見ました。学習の効果がしっかりと表れており、質の高い授業に感銘を受けました。